

校番	095	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	高等学校用
----	-----	----------	-------	------	---	-------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山商業高等学校	校長	田玄和司	生徒指導主事	井手之上訓芳
-----	----------	----	------	--------	--------

取組事例名 『異校種間連携』**取組のねらい** 『地域社会への参加意識の育成』

3年間の情報処理実習の一環として、自作物を活用した異校種間連携を実施し、自ら学ぶ意欲と地域社会への参加意識を育成する。

身に付させたい資質・能力

商業科目で習得した知識・技術を活かし、主体的に実践する能力。
自ら学ぶ意欲、地域社会への参加意識及びコミュニケーション能力。

取組の具体的内容 『校種間連携による指導体験』

本校の情報ビジネス科3年生による取組。11月初旬に学校近隣のこども園等に行き、生徒たちがパソコン実習を通して作成したデジタル紙芝居等を発表する。発表後は園児たちとレクレーションやゲーム等を行い、積極的に交流を図る。

デジタル紙芝居の作成に当たっては、2学期の始めに各ホームルームで4～5人のグループを作り、グループごとに生徒が作業を分担して一つの作品を完成させる。また、園児への接し方及び他者への思いやりを学ぶ機会とし、保育園で実習を行うための心構えを身に付けるよう学習を進める。実習前には、完成したデジタル紙芝居をホームルームで発表し、相互評価を行う。



取組の課題・創意工夫『生徒自身の知識と技術を活かす指導体験実習』

生徒が園児たちと交流するための事前指導として、保育園の教員や園児たちに失礼がないよう、言葉遣いや接し方について十分に指導する。また、交流においては、園児たちがどのようなゲームをすれば楽しんでくれるかなど、園児の目線でグループ協議を重ねた。

取組の成果（効果）『課題解決型学習』

ホームルーム全体で制作物の相互評価を行うことにより、自分の知識・技能を振り返ることができる。体験実習を通して、園児の感情や気持ちを読み取り、どのようなコミュニケーションをとる必要があるかを考え、実践することができる。そのことから、園児や地域の方々に思いやりの気持ちをもった行動をとることができる。高校入学時から学習してきたパソコン技能等を効果的に活かすことができ、達成感や自己有用感を高めることにつながる。

今後の展開『地域貢献』

体験実習を充実させることにより、生徒が校外で活躍する場を提供し、その姿を地域社会にアピールすることができている。今後は、制作物の完成度を更に高め、生徒の作品を発表する場を増やして地域の方々の目にふれる機会を多く設定する。また、本校が地域から愛される存在となるよう、3年間の教育活動のストーリーをつくり、公開性を高める。

他校へのアドバイス『地元での体験実習』

生徒が自ら学習してきたことを基に、仲間と協働して作品を作り上げ、地域に向けて発表することで、「商業高校で学んで良かった」と思える機会を増やす。園児たちとの交流を通して、自分が頼りにされる存在であることを体験する。このことにより、社会人としての責任感や自己有用感を高める効果がある。